



「PAG検査を活用しよう！～分娩間隔の短縮を目指して その2～」

春到来！とまでは言えませんが、とても暖かく穏やかな日々が増えてきました。まさに三寒四温の時期でしょうか？そろそろ、圃場作業など忙しくなるこの時期ではありますが、“分娩間隔の短縮”に改めて向き合ってみませんか？

今月号では、前月号でご紹介した「PAG検査」のポイントを詳しくお伝えしたいと思います。PAG検査を上手く活用して分娩間隔の短縮を目指しましょう！

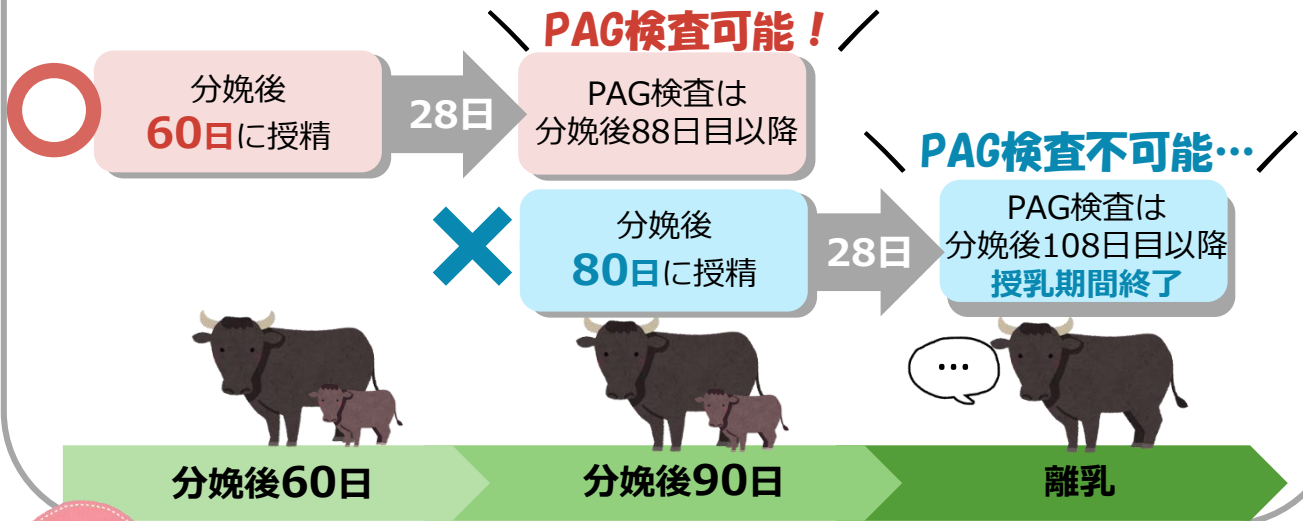
1 乳汁による妊娠判定検査「^{パグ}PAG検査」の特徴

妊娠⊖の早期検出が可能、獣医師の介在不要

①授精後28日目以降②分娩後60日目以降③離乳していないことが条件

ポイント

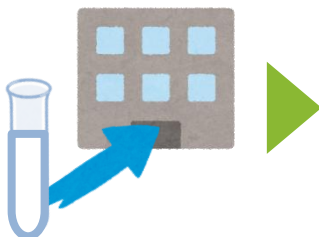
和牛の場合、PAG検査が実施できるのは乳汁採取が可能な授乳期に限定されます！



和牛の場合は、離乳する日から30日前までに授精すれば、PAG検査ができるんだね！

2 PAG検査の流れ

- ①乳汁採取
- ②検体を検査機関へ送付
- ③結果報告 (送付から3日後)
- ④その後の処置



妊娠⊕の場合、授精後60日目以降に獣医師による妊娠確定診断

妊娠⊖の場合、早期治療・再授精

ポイント

妊娠⊖を早く見つけて対処することが重要です！



3 安全な乳汁採取の方法

場所	牛を壁際に寄せて行う
採取方法	作業側側のスペースは広くとり、逃げられるスペースを確保する ①
採取方法	牛の後ろ足の付け根に体重をかけ後ろ足をあげないようにする ②
採取方法	乳汁はビニル袋のような口の広いものに採材してから指定容器に移す
タイミング	検体を採取する約2時間前から母牛と子牛を離す
その他	嫌がる牛に対しては無理に行わない

ポイント 



4 実際にやってみて～生産者からの声～

- ・作業自体は慣れれば問題ない。今後も活用したい。(奥州市)
- ・何もしないで後回しになるのがいつものパターンだったので、すぐに治療につなげられて良かった。(一関市)

ご興味のある方は、普及センターへ是非お問い合わせください！

《子牛を大きく育てよう！》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

○ 育成牛へのエサやり(飼料給与)について

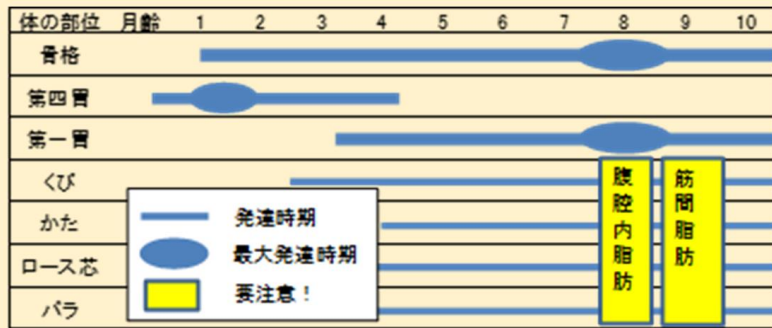
育成牛は骨格も内臓も成長中なので、十分な栄養が必要です。

また、内臓を十分に発達させるためには、月齢に合わせた適正な粗飼料給与が重要です。

マニュアルのダウンロードはこちら→



◎ 育成期 = 成長期 しっかり食わせて しっかりおがらす!!



《粗飼料の給与》

- ・6か月齢までは、第一胃を『つくる』時期
→ 栄養価が高く柔らかめの再生草(2番、3番草)を
- ・7か月齢以降は、第一胃を『育てる』時期
→ 硬めの1番草を

図 1 各部位の発達時期



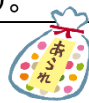
注意



8か月齢前後は、脂肪がつきやすい時期です。余計な脂肪は購買者に敬遠されてしまうので、配合飼料は月齢に応じた必要量を給与し、粗飼料は不断給餌(飼槽を空にしない)しましょう。

変形してしまったロース芯(ハート芯)

育成期に余計な脂肪が付着したことが原因



お問い合わせ >>>

奥州農業改良普及センター 0197-35-8451

一関農業改良普及センター 0191-52-4961